

# シ ラ バ ス

事業者名 小名浜ときわ苑

研修課程 介護職員初任者研修

科目名	職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。 ・研修課程全体（130時）の構成と各研修科目（10科目）相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ・視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、できるかぎり具体的に理解させる。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
多様なサービスの理解	3	3	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険による居宅サービスの種類と、サービスが提供される場の特徴を理解する。</li> <li>・介護保険による施設サービスの種類と、サービスが提供される場の特徴を理解する。</li> <li>・介護保険外のサービス種類と、サービスが手京される意義や目的を理解する。</li> </ul>
介護職の仕事内容や働く現場の理解	3	3	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種サービスの内容や利用者像等を通じて、介護職の仕事内容や働く現場を理解する。</li> <li>・ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供に至るまでの流れを理解する。</li> <li>・チームアプローチの必要性と、具体的な連携方法を理解する。</li> </ul>
合計	6	6	0	

# シラバス

事業者名 小名浜ときわ苑

研修課程 介護職員初任者研修

科目名	介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳ある暮らしをささえる専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する。 ・具体的な事例を複数示し、利用者及びその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援、介護予防という考え方に基いたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気付きを促す。 ・利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気付きを促す。 ・虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
人権と尊厳を支える介護	6	1	5	・介護を必要とする人が有する権利とは何かを学ぶ。 ・介護に関する基本的な視点（ICF、QOL、ノーマライゼーション）について理解する。 ・利用者の権利を擁護するための制度の種類や内容について理解する。
自立に向けた介護	3	1	2	・介護における自立とは何かを学ぶ。 ・「その人らしさ」を尊重するために、介護職として配慮すべき点について理解する。 ・介護の予防の考え方について理解する。
合計	9	2	7	

# シラバス

事業者名 小名浜ときわ苑

研修課程 介護職員初任者研修

科目名	介護の基本			
指導目標	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。 ・可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 ・介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人に対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるように促す。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
介護職の役割り 専門性と多職種との連携	2	1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護環境の特徴（施設と在宅との違い、地域包括ケアの方向性など）について学ぶ。</li> <li>介護の専門性について考え、専門職に求められるものは何か学ぶ。</li> <li>多職種連携の目的を学び、利用者を支援するさまざまな専門職について理解する。</li> </ul>
介護証の職業倫理	2	1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護職が持つべき職業倫理を学ぶ。</li> <li>日本介護福祉士会倫理綱領を参考に介護職にかかわる倫理綱領を理解する。</li> </ul>
介護における安全の確保と リスクマネジメント	1	0.5	0.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ。</li> <li>利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守る仕組みについて学ぶ。</li> </ul>
介護職の安全	1	0.5	0.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護の特徴をふまえ、介護職自身の健康管理の必要性について学ぶ。</li> <li>介護職に起こりやすいところとからだの病気や障害について学ぶ。</li> <li>介護職自身の健康管理の方法（病気や障害の予防と対策）について学ぶ。</li> </ul>
合計	6	3	3	

# シラバス

事業者名 小名浜ときわ苑

研修課程 介護職員初任者研修

科目名	介護・福祉サービスの理解と医療との連携			
指導目標	介護保険制度や障がい者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。 ・介護保険制度・障がい者自立支援制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ・利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障がい者自立支援制度、その他制度のサービスの位置付けや、代表的なサービスの理解を促す。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
介護保険制度	3	0.5	2.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度が創設された背景を理解したうえで、制度の目的と動向について学ぶ。</li> <li>・介護保険制度の基本的なしくみを理解する。</li> <li>・介護保険制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに、制度の財政について学ぶ。</li> </ul>
医療との連携とリハビリテーション	3	1	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護職と医療行為の実情と経過について理解する。</li> <li>・在宅及び施設における介護職と看護職の役割り・連携について理解する</li> <li>・リハビリテーションのリネンと考え方について理解する。</li> </ul>
障害者自立支援制度及びその他の制度	3	0.5	2.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害者福祉制度における障害の概念について、その歩みをふまえて学ぶ。</li> <li>・障害者自立支援制度の基本的なしくみについて理解する。</li> </ul>
合計	9	2	7	

# シラバス

事業者名 小名浜ときわ苑

研修課程 介護職員初任者研修

科目名	介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。 ・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。 ・チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
介護におけるコミュニケーション	3	1.5	1.5	・対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する。 ・介護におけるコミュニケーションの役割りと技法について理解する。 ・事例を通して、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する。
介護におけるチームのコミュニケーション	3	1.5	1.5	・介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点などについて学ぶ。 ・チームのコミュニケーションについて必要な報告、連絡、相談の意義と目的を理解し、具体的な方法について学ぶ。
合計	6	3	3	

# シラバス

事業者名 小名浜ときわ苑

研修課程 介護職員初任者研修

科目名	老化の理解			
指導目標	齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自ら継続的に学習すべき事項を理解している。 ・高齢者の多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴	3	1	2	・老化についての考え方や学説について理解する。 ・老化が及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する。 ・老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解する。 ・多くの側面に渡る身体的老化現象と日常生活への影響について理解する。
高齢者と健康	3	2	1	・高齢者の多く観られる症状や訴えがどのような疾病から起きるか等、その特徴について理解する。 ・高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について理解する。
合計	6	3	3	

# シラバス

事業者名 小名浜ときわ苑

研修課程 介護職員初任者研修

科目名		認知症の理解		
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。 ・認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるように工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 ・複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則について理解を促す。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
認知症を取り巻く環境	2	1.5	0.5	・「認知症を中心としたケア」から、「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する。 ・問題視するのではなく、人として接することを理解する。 ・できない事ではなく、できることを見て支援することを理解する。
医学的側面からみた認知症の基礎と健康管理	2	1	1	・老化のしくみと脳の変化を学び、認知症の原因を理解する。 ・認知症に類似した症状を持つ疾病について学ぶ。 ・アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症の主な原因疾患の病態、症状について学ぶ。
認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	1	1	0	・認知症の症状を知ることによって、どのようなケアが必要かを学ぶ。 ・認知症の人の行動と環境の関係について理解する。 ・病気の症状があっても、その人の尊厳を守る視点をもつことについて学ぶ。
家族への支援	1	0.5	0.5	・家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性を学ぶ。 家族とは助けるための存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを学ぶ。
合計	6	4	2	

## シラバス

事業者名 小名浜ときわ苑

研修課程 介護職員初任者研修

科目名	障害の理解			
指導目標	障害の概念とICF、障がい者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。 ・介護において障害の概念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。 ・高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障がいの特性と介護上の留意点に対する理解を促す。 ・障がいの受容のプロセスと基本的な介護お考え方について列挙できる。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
障害の基礎的理解	1	0.5	0.5	・「障害とはどういうものなのか」という考え方を学ぶ。 ・ICF（国際生活機能分）に基づきながら、「障害」の概念について理解する。 ・障害者福祉の基本理念（ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン）について理解する。
障害の医学的側面、生活障害などの基礎知識	1	0.5	0.5	・障害の原因となる主な疾患を理解する。 ・障害に伴う心理的影響、障害の受容を理解する。 ・障害のある人の生活を理解し、介護上の留意点を学ぶ。
家族の心理、かかわり支援の理解	1	0.5	0.5	・家族支援は、家族介護の肩代わり支援だけではないことを学ぶ。 我が国に求められるレスパイトサービスの課題を学ぶ。
合計	3	1.5	1.5	



# シラバス

事業者名 小名浜ときわ苑

研修課程 介護職員初任者研修

科目名	こころとからだのしくみと生活支援技術①			
指導目標	<p>介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。</p> <p>尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。</li> <li>・サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じない技術の根拠を身近に理解できるように促す。</li> <li>・例えば「食事の介護技術」は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事を提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。</li> <li>・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材から気づきを促す。</li> </ul>			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
I 介護に関する基礎的理解				
介護の基本的な考え方	3	3	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「介護」が理論的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する。</li> <li>・「介護」が法的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する。</li> </ul>
介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	3	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習と記憶に関する基礎的な知識を理解する</li> <li>・感情と意欲に関する基礎的な知識を理解する</li> <li>・自己概念と生きがい、廊下や障害の受容に関する基礎的な知識を理解する。</li> </ul>
介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4	2	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の維持・恒常のしくみを理解する。</li> <li>・骨や関節など、体の動きのメカニズムを理解する。</li> <li>・神経の種類と、そのはたらきを理解する。</li> <li>・眼や耳、心臓をはじめとするからだの器官の働きを理解する。</li> </ul>
II 自立に向けた介護の展開				
生活と家事	8	8	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活を維持していくための家事の重要性について学ぶ。</li> <li>・家事援助（調理、洗濯、掃除などの援助）は利用者にとってどのような意味があるのかを理解する。</li> <li>・家事援助とは何かについて具体的に理解する</li> </ul>
合計	18	16	2	

# シラバス

事業者名 小名浜ときわ苑

研修課程 介護職員初任者研修

科目名	こころとからだのしくみと生活支援技術②			
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 ・介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。 ・サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じない技術の根拠を身近に理解できるように促す。 ・例えば「食事の介護技術」は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事を提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材から気づきを促す。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
快適な居住環境整備と介護	8	8	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して快適に生活するために必要な環境の整備とはなにかについて学ぶ。</li> <li>・住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について学ぶ。</li> <li>・高齢者や障害のある人が生活する中で、住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点を学ぶ。</li> </ul>
整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5	3.5	1.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整容の必要性と、整容に関連したこころとからだのしくみを理解する。</li> <li>・利用者本人の力を活用し、整容の介護を行うための技術を身に付ける。</li> </ul>
・移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	6	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動・移乗の必要性と、移動・移乗に関連したこころとからだのしくみを理解する。</li> <li>・利用者本人の力を活用し、移動・移乗の介助を行うための技術を身に付ける。</li> <li>・心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について理解する。</li> </ul>
食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	5	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の必要性と、移動・移乗に関連したこころとからだのしくみを理解する。</li> <li>・利用者本人の力を活用し、食事の介助を行うための技術を身に付ける。</li> <li>・心身機能の低下が食事に及ぼす影響について理解する。</li> </ul>
合計	24	20.5	3.5	

# シラバス

事業者名 小名浜ときわ苑

研修課程 介護職員初任者研修

科目名	こころとからだのしくみと生活支援技術③			
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 ・介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。 ・サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じない技術の根拠を身近に理解できるように促す。 ・例えば「食事の介護技術」は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事を提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材から気づきを促す。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	3.5	2.5	・入浴・清潔保持がもたらす心身への効果と入浴に関連するこころとからだのしくみを理解する。利用者本人の力を活用し、楽しい入浴の介助を行うための技術を身に付ける。 ・心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する。
排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	5	1	・排泄の必要性と、排泄に関連したこころとからだのしくみを理解する。 ・利用者本人の力を活用し、気持ちのよい排泄の介助を行うための技術を身に付ける。 ・心身機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解する。
睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	4	4	0	・睡眠の必要性と、睡眠に関連したこころとからだのしくみを理解する。 ・心地よい睡眠を支援するための知識と技術を身に付ける。 ・心身機能の低下が睡眠に及ぼす影響について理解する。
死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	5	5	0	・終末期の捉え方を学ぶ。 ・終末期から死までの身体機能の変化にちて理解し、状況に合わせた対応を学ぶ。 ・死に直面したときの人の心理状況について理解し、こころの変化の受け止め方を学ぶ。
合計	21	17.5	3.5	

# シ ラ バ ス

事業者名 小名浜ときわ苑

研修課程 介護職員初任者研修

科目名	こころとからだのしくみと生活支援技術④			
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。 ・介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。 ・サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じない技術の根拠を身近に理解できるように促す。 ・例えば「食事の介護技術」は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事を提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ・「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材から気づきを促す。			
項目名	時間数	通学 時間数	通信 時間数	講義内容・演習の実施方法等
Ⅲ生活支援技術演習  介護過程の 基礎的理解	6	5	1	・介護過程の目的・意義・展開 ・介護過程とチームアプローチについて学ぶ。
総合生活支援技術 演習	6	4	2	(事例による展開) 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心得の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ・事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題(1事例1. 5時間程度で上のサイクルを実施する) ・事例は高齢(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から2事例を選択して実施
合計	12	9	3	

# シ ラ バ ス

事業者名 小名浜ときわ苑

研修課程 介護職員初任者研修

科目名	振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
振り返り	2	2	0	・研修を通じて学んだこと・今後継続して学ぶべきこと・根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性などを理解する。
就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2	2	0	・継続的に学ぶべきこと・研修修了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例（Off-JT、OJT）を紹介する。
修了試験	1	1	0	
※希望者 普通救命講習				応急手当の重要性と必要性等 ・応急手当の目的・気道確保の対象者・心肺蘇生の対象者・救命に必要な応急手当・胸骨圧迫・気道確保・人口呼吸法・心肺蘇生要領・AEDの使用法・異物除去要領
合計	5	5	0	